

認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう

mingle

みんぐる

2017.3
Vol.55



Top News 高校生活
スタート!

特集 たぶんか フリースクールの思い出

多文化 VOICE 4

イチオシ&スタッフの声 5

たぶんかフリースクールの毎日 6

ボランティアの活動報告 8

いいね! 多文化共生センター東京のできごと 9

<http://tabunka.or.jp/>

多文化共生センター東京

検索



認定NPO法人

多文化共生センター東京の紹介

Multicultural Center TOKYO

ホームページリニューアルしました!

<http://tabunka.or.jp/>

facebook.com/tabunkatokyo

@tabunka_tokyo

私たちのビジョン

私たちは、国籍や言語、文化の違いをお互いに尊重する社会を目指しています。外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

私たちが思い描く多文化共生社会とは、国籍や言語、文化、民族などの異なる人々が、互いの違いを認め、対等な関係を築こうとしながら共に生きていく社会です。外国にルーツをもつ人々が、不当な社会的不利益をこうむることなく、また、それぞれのアイデンティティを否定されることなく、社会に参加することを通じて実現される、豊かで活力ある社会です。多文化共生社会を実現するためには、以下の3つの視点が必要だと考えます。

基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

少数者への力づけ(エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ、(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人」も変わり、少数者とともに生きていく。

私たちのミッション

外国にルーツを持つ子どもたちの教育を受ける機会の拡大に努めます。

教育実態調査、多言語高校進学ガイダンス、「たぶんかフリースクール」の実践など、外国にルーツを持つ子どもたちの日本語・教科・高校進学支援を通して、外国にルーツを持つ子どもたちを正規の学校へつなげます。

外国にルーツを持つ子どもたちがそれぞれの持つ個性や能力を発揮し、日本社会で活躍できるような教育の実現に取り組みます。

「たぶんかフリースクール」での日本語・教科・キャリアデザイン教育、行事・イベントなどを通して、外国にルーツを持つ子ども達が日本の社会で各々の個性や能力を発揮できるようサポートします。

国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

講演やワークショップ、イベント、広報活動、教育実態調査、ボランティア機会の提供により、多文化共生の理念を広く社会に広げます。

私たちの取り組み

外国にルーツを持つ子どもたちが毎日通え、日本語や教科を勉強できる学びの場を提供しています。

：たぶんかフリースクール

主に学齢超過生徒や母国で中学を卒業した生徒を対象に、高校受験を目指した学習をサポート。荒川区内の中学校に通う来日後間もない生徒への日本語指導。

外国にルーツを持つ親子へ、多言語で教育に関する情報を提供しています

：教育相談

：多言語による高校進学ガイダンス

ボランティアとして多くの方に関わっていただく機会を提供するとともに、子ども一人ひとりへきめ細かいサポートを行っています。

：子どもプロジェクト(学習支援)

毎週土曜日、中高生を対象に日本語や教科をボランティアが一対一でサポート

：親子日本語クラス

毎週土曜日、小学生以下の子どもへは日本語や学校の勉強、親へは生活に必要な日本語を一対一でサポート

多くの皆さんに知っていただくための働きかけをしています

：外国にルーツを持つ子どもへの教育実態調査

：研修会・セミナー・ワークショップ等への講師派遣、人材育成、自主セミナー

：メールマガジン、ブログ、

ニュースレター「みんぐる」の発行

高校生活スタート!

3月に入り、日まじに春めいてきました。そして1月から始まった2017年度高校入試も、終わりに近づいています。

「たぶんかフリースクール」の子どもたちも、厳しい試練を乗り越えて、4月から高校生活をスタートします。教室の中の子どもたちは、不安や緊張が和らぎ、明るい笑顔で日本語のおしゃべりも楽しそうです。ほとんどが来日1年以内の子どもたちが学ぶ「たぶんかフリースクール」では、今年も高校受験に際して様々な問題に直面しました。

来日3年以内の外国籍生徒が受験できる在京外国人枠入試

今年は、今まで23区内にしかなかった在京外国人枠実施校が、あらたに多摩地区の府中西高校が増え6校となりました。4月募集定員は95名から110名となりました。

今年度6校の応募人数は216名で、1.96倍でした。(昨年度5校で応募人数197名2.07倍) 高校数は増えたとはいえ、依然として狭き門です。全日制高校の受験科目が5教科になってからは、更に在京枠受験をする生徒が増えています。

在京枠資格審査を都教育委員会で一括の審査を!

= フィリピン二重国籍の問題 =

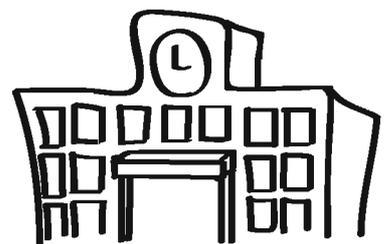
在京枠審査では、日本国籍を有する者(本人)は、外国発行の最新のパスポートで二重国籍を確認するとしていますが、フィリピンと日本の二重国籍を持つ生徒は、パスポート以外にフィリピン司法省出入国管理局発行の「IDENTIFICATION CERTIFICATE」によって国籍を確認することができます。

しかし、過去にこの書類をもって出願資格を認められ受験した生徒がいたにもかかわらず、公的書類かどうか、確認できないとして受験資格なしとした高校がありました。その一方、同じ書類で資格有りとなった高校もあり、同じ在京枠校にもかかわらず、受けられる高校と受けられない高校が出てきました。これについては、東京都教育委員会に問い合わせ、教育委員会が、直接フィリピン司法省に問い合わせることにより、確かに国籍を証明している書類であることが確認されたので、当初、資格なしとされた高校も受験することができるようになりました。その間、資格を有しないとされた生徒は、受けられるかどうかかわからず、大きな不安の中で数週間を過ごし、受験しました。

今回生じた問題は、在京枠校の資格審査の判断が各高校によって違うという大きな問題でした。高校進学を目指す子どもたちが、高校による対応の違いで翻弄されることのないように、一括で審査する方法をぜひ実施してほしいと思います。

また、来日して日本語が十分でない外国にルーツを持つ子どもたちは、外国籍の子どもたちだけではなく、二重国籍で外国籍を持つ子ども、そして日本国籍のみの子どものみです。日本語が十分でないというハンディは、国籍を問わず生じています。

日本語の壁をもつ外国にルーツを持つ子どもたちが、国籍を問わず高校進学の手続きを保障されるよう改善を求めたいと思います。(柗木)



たぶんかフリースクールの思い出

4月

2016年度スタート

荒川校 12名、新宿校 5名

スポーツ大会と交流授業

株式会社セールスフォース・ドットコムのみなさんにご協力いただき、荒川遊園スポーツハウスにて「交流スポーツ大会」を行いました。それに合わせて、午前中に新宿校の生徒たちが荒川本校に来て、初の両校合同交流授業を行いました。

6月

6月24日に新宿校から荒川校まで行きました。それから荒川校のせいとといっしょに勉強しました。昼ごはんは荒川校のせいととセールスフォースの人と一緒に食べました。

午後はスポーツ大会がありました。みなさん一緒にドッチボールをしました。しっぽおにをしました。この経験はとても楽しかったです。(Oくん)



GAPとBANANA REPUBLICのお店で
職場体験を行いました。

GAP 職場体験

日本の会社ではたらくことはじめてでした。一ばんおもしろかったことはレジです。とてもいい経験をしました。たとえばあいさつを笑顔ですることができました。(Mくん)

7月

9月

ユースフェスタ

9月11日に日暮里駅前イベント広場で「たぶんか★ユースフェスタ 2016」を開催しました。「たぶんかフリースクール」の子どもたちは屋台で水餃子を売ったり、来場者に自分の母語でメッセージを書いたオリジナルメッセージカードをプレゼントしたりとがんばりました。ステージでは在校生だけではなく、卒業生もダンスや歌や演奏を披露してフェスタを盛り上げてくれました。

9月11日 日曜日 にっぽりでユースフェスタがありました。いろいろな国からたくさんの方が来ました。私も行きました。みんな楽しそうに見えました。私はステージで話しました。話をする前、私はどきどきしました。あらかわの二人の友達といっしょにステージで話しました。私はとてもうれしかったです。(Sさん)

9月11日はユースフェスタの日でした。日暮里駅で行われました。みんなはいろいろなことをしました。メッセージを書いたり、ステージで話したり、カフェを手伝ったりしました。私はメッセージを書きました。日本の人にベトナム語を教えました。とても楽しかったです。(Uさん)



10月

鎌倉遠足

10月29日(土)に株式会社セールスフォース・ドットコムのご支援で鎌倉遠足を実施しました。セールスフォース・ドットコム社員ボランティアのみなさん、「たぶんかフリースクール」の子ども達、講師・スタッフ・インターン、計104名が参加しました。



鎌倉の遠足はとても楽しかったのです。大仏はきれいだったんです。そしてすごく大きかったです。まさにジャイアントみたいです。大仏の中に入ることができます。しんじられませんでした。(Tくん)

土曜日はとても楽しかった。この日をぜったい忘れない。鎌倉は初めての場所です。大仏はとても面白かったです。また江の島も面白い。いい景色がありました。(Mくん)



いよいよ
受験シーズン!

1月

在京外国人対象入試

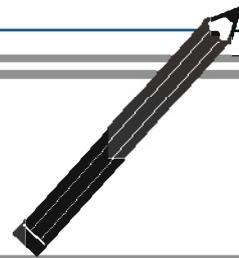
「たぶんかフリースクール」に入る前は私は日本語は全然わかりません。だから高校は合格できないと心配していました。先生ははっきりとした口調で私に「あなたはきっとやりとげることができる。がんばって。」と言いました。心の中の圧力が少なくなりました。(Sさん)

試験の前に私は緊張しました。先生は私にチョコレートくれました。チョコレートの上に「心配ないよ。大丈夫です。」と書いてありました。このメッセージを読むと自信になりました。(Wさん)



一般入試!

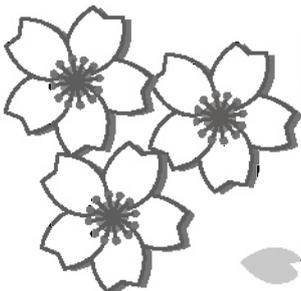
2月



3月

祝! 57名卒業!

たぶんかフリースクールではみんなは高校に入るためにがんばるし、先生たちは家族のように教えてくれるから、楽しくて充実しました。(Kさん)
たぶんかフリースクールで友だちをたくさん作りました!(Wさん)





Khin AyeNge さん

私はミャンマーの大都市、ヤンゴン出身です。19年前留学生として来日し、日本語学校を終えて、2000年に東京外国語大学、日本語科に入学しました。卒業後、2004年にNHKに入社しました。今、NHK国際放送局でビルマ語放送の担当の仕事兼番組制作の仕事をしています。

来日した当時、“失礼しました”と“ありがとう”という言葉しか話せていなかった私ですが、ひらがなやカタカナ、漢字など覚えて行くのが大変でした。しかし、私はいつでも人一倍努力します。目標を立て、一日3時間から5時間勉強するのは当たり前です。今でも毎日が勉強だと思っています。自分の努力は絶対に裏切らないと信じ、何が起ころうとも自分にとって、全てはプラスだと思っています。

外国人の私にとって、日本には分からないことがたくさんあります。19年前のミャンマーは鎖国的な国だったため、海外の情報も何一つ分からなかったのです。私は人の話を聞くのが得意です。韓国人、中国人、インド人など色々な国から来た学生たちと友達になり、色々な情報を得て、自分の視野を広げていきます。アルバイト先で知り合った、日本人の大学生友達たちが大学の受験方法や就職活動のやり方などを教えてくれます。人脈を広げることは自分の視野を広げることにつながります。素直になって、恥ずかしがらず、人に挨拶する、人に教えてもらうことは日本で生活を成功させるコツ

だと思います。

私が来日した理由は日本のサービス業に関心を持っていたからです。しかし、大学一年生の時にNHK国際放送局が行った翻訳とアナウンス試験に合格し、フリーのアナウンサーの仕事を始めました。それがきっかけとなって、メディアに関心を持つようになりました。人に役に立つ情報を伝える仕事に憧れ、NHKの番組制作者採用試験を受けることになりました。外国人として日本人と同じように筆記試験を受けると結構大変です。しかし、外国に来たからには、頑張るしかないのは現実です。あまりの大きさに逃げ出したくなる時も時々ありました。しかし、現実と向き合うのは人生です。人生は修行だと思っています。自分がやりたければ、まずは行動すること、限界を作らないことは私の考え方です。自分の生活水準を上げるためにも、未来を変えて行くためにも、(私の場合は親孝行をするためにも)自分の学問に励み、それを磨いていくことが大切だと思っています。

大学にいた時は、学業以外にもボランティア活動のサークルを作り、日本の大学生たちをミャンマーの若者や子どもたちと繋げ、恵まれない子供たちやビルマ語を使う場がない人たちのために社会貢献をしてきました。今は毎日番組制作で忙しいですが、自分の仕事を通して、人の役に立つことを必ずするようにしています。やりたいことはやるべきことの中から探す!今できることを精一杯やる!周りの社会を良い方向に変えて行く!自分を信じる!それが私のポリシーです。

イ チ オ シ



『ジニのパズル』

著：崔実

—「日本には私のような日本生まれの韓国人が通える学校が
二種類あるんだ。」—

朝鮮学校と韓国学校、二つの違いも知らずに育った私にとって、本著はまず在日朝鮮・韓国人を取り巻く環境を知るきっかけとなった。著者は在日韓国人三世の崔実さん。『ジニのパズル』は彼女自身の経験を取り入れたフィクション小説である。

主人公は、アメリカのオレゴン州の高校に通うジニ。高校から退学の宣告を受けた日、ホストマザーにアメリカに来る前に何かあったのかと問われ、彼女は自分の過去を語りだす。ジニは日本の小学校を卒業し、中学から朝鮮学校に編入した。壁に掛けられている金日成と金正日の肖像画、団体で行う行事の多さ、日本語禁止の学校。非日常が日常になり始めた頃、北朝鮮がミサイルテポドンを発射した。ニュース・新聞が北朝鮮で埋まったその日、ジニは警察と名乗る男たちに囲まれる。そして、この日こそがホストマザーが尋ねた「何か」の始まりだった。ジニが行った「最初で最後の革命」の・・・。

本著は、怒りと悲しみの比重が大きい。決してサラリと読めるものではない。朝鮮学校という存在は知られているけれど、社会から隔離されている場所。チマ・チョゴリを来て登校する生徒へ向けられる視線。朝鮮人であるだけで浴びせられる心ない言葉。これは、現実だ。今、日本社会ではハーフやニューカマーの増加が注目を浴びている。しかし一人の少女の現実を知ること、日本に長いこと暮らしてきた在日朝鮮人のことを改めて知りたい、知らなければと思えた小説だった。(水野)



2016年 講談社

定価：本体 1,300円 (税別)

スタッフの

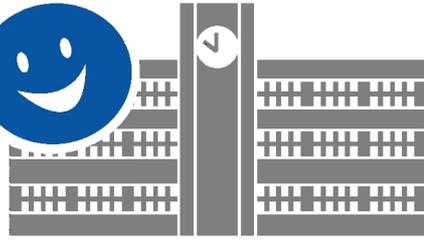


みんぐる読者の皆様、はじめまして。12月から多文化共生センター東京（以下多文化）の事務局スタッフとして働き始めた水野幸美です。多文化で働く前は、アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市で約5年間留学しており、2016年8月にワシントン大学を卒業しました。大学では人種問題や人権、マイノリティの抱える課題について勉強をし、課外活動でもアジア系アメリカ人や移民コミュニティと積極的に関わってきました。そんな中、アメリカでの人種・民族的マイノリティを取り巻く環境について学んでいくうちに、まるで自分の経験を別の人の経験を通して学びなおしているよ

うな感覚に陥りました。実は私自身、中国残留孤児の祖母をもち、3歳のときに家族と一緒に中国から日本に移住したという経験があります。幼いながら感じてきた周りの「中国」への嫌悪感から自分のルーツを誇りに思えない。自分はいったい何人なのだろうか。アメリカで出会った人種・民族的マイノリティの若者も、自分では選ぶことのできない「ルーツ」に関して悩んでいました。自分と似た境遇の若者に会い、今まで誰にも話すことのできなかつた悩みを共有できたことは、私にとって中国にルーツを持つということ、そして「ありのままの自分」を受け入れるきっかけとなりました。この時の安心感・解放感のようななんともいえない感覚は今でも忘れません。そんな経験を経て、外国にルーツをもつ子どもを含めた「マイノリティ」が自分らしく生きることのできる社会をつくるのが、いつか私の夢となりました。その時に「多文化共生」とインターネットで調べて見つけたのが、多文化共生センター東京です。当時はまさか実際に働くことになるとは想像もしていませんでしたが、ご縁に本当に感謝です。多文化で働くことは、私の夢に近づく第一歩です。まだまだ未熟者ですが、これから皆様と一緒に活動できるのを楽しみにしています。どうぞ、よろしくお願い致します。

たぶんか フリースクールの 毎日

TABUNKA
FREE SCHOOL



〈たぶんかフリースクール荒川校〉

11月の後半から私立高校を受験する生徒たちがぼつぼつと現れ、1月末にはいよいよ東京都在京外国人生徒対象入試がありました。今年も荒川校から多くの生徒がこの入学試験に臨みました。生徒たちは連日作文と面接を、授業や放課後の時間に練習しました。多くの先生方や土曜日のボランティアスタッフの方にもご協力いただきました。

それまではややもすれば生徒たちののんびり加減に見ているこちらがやきもきすることも多かったのですが、さすがに面接練習が始まるとみな入試が間近になってきたのを実感するのが、心なしか普通の授業にも真剣に取り組む姿が多く見られるようになりました。

合格発表の日、合格した生徒の晴れやかな笑顔や、不合格だった生徒の落ち込んだ顔に、私も涙腺が刺激されてしまいました。荒川校全体としては残念な

がらなかなか厳しい結果となってしまいましたが、不合格だった生徒たちも沈んでいたのは合格発表の当日と、引きずった生徒でもその翌日のみ。合格した生徒や、一般受験の生徒・他県の公立高校を受験する生徒たちからの励ましもあり、今では次の一般入試に向け、気持ちを新たに、今度は教科の勉強に励んでいます。

荒川校には埼玉県・千葉県のご公立高校を受験する生徒たちも在籍していますので、入試シーズンは3月中旬まで続きます。進学希望の生徒全てが無事進学でき、明るい春を迎えられるよう頑張してほしいものです。

ただ高校に合格することはゴールでは無く、漸く本格的な日本社会での生活のスタートラインに立つに過ぎません。新たな環境の中、一步一步、あるいは一足飛びで、或いは飄々と、各々のペースで着実に歩を進めて欲しいと切に望んでいます。(信川)

〈たぶんかフリースクール新宿校〉

昨年4月、わずか5人でスタート。「今年は生徒が少ないな～」と心配していた新宿校でしたが、その後徐々に増えてきて、2月現在28人。今年も様々な国から来た生徒たちが、高校入学という同じ目標を目指して勉強してきました。

昨年秋からの学校見学や、担任・保護者との面談を経て、1月の冬学期始めには志望校を決定。面接や作文の練習をしながら、願書を書いたり提出書類をそろえたり、着ていく洋服を選んだりということもしなければならず、あわただしく時間は過ぎて、あっという間に1月26日の都立高校在京外国人対象入試。今年も倍率が高くて心配したのですが、幸い13人中12人が合格しました。

この原稿を書いている2月半ばは、進路が決まって高校生活への準備の学習を進めている生徒たち、これから都立高校の第一次募集、埼玉県立高校などの入試に向けて、最後の追い込みに入っている生徒たちが、狭い新宿校の中で毎日顔を合わせているという状況です。

進路が決まってくれしそうな仲間を側で見ながら、「次は自分の番だ。」と気を引き締めて、遅くまで教室に残って黙々と勉強している姿に心打たれる一方、「もう時間がないのよ。もうちょっと真剣に取り組んでほしいなあ～」と、つい大きな声を出してしまいたくなる子もいます。

3月には、みんな進路が決まって、多文化フリースクールの卒業を祝いたいと願っています。(伊東)

〈英語エッセイサポートクラス〉

12月と1月の土曜日、スイスに本拠を置くグローバル金融機関「UBSグループ」の社員ボランティアさんによる、在京外国人対象入試の前に英語のエッセイと面接のサポートクラスが実施されました。熱心にご指導をいただき、また心から生徒たちを力づけてくださったおかげで、ほとんどの生徒が合格することができました。

生徒たちも社員ボランティアのみなさんのことが大好きで、合格した後にお礼の手紙を書きました。その一部をご紹介します。

UBSのみなさんへ

私は日本の高校に入りたいです。私は英語に自信があるので、英語の作文を書くテストを選びました。しかし作文のパターンをいつもまねがえしました。UBSの人は私たちのために休みの日も学校へ来てたずけてくれました。まねがえた言葉をたくさん注意してくれました。UBSの人のアドバイスを聞いて、作文を書く時に気をつけました。そして上手になりました。ですから合格しました。(Rさん)

私はベトナムにいる時、英語の作文を書いたことがありませんでしたから、英語作文はとても下手でした。UBSさんは私に英語を教えてくださいました。とてもうれしかったです。UBSさんのおかげで私は作文を書くことができたし、だんだん上手になりました。受験の前はとても緊張していましたが、UBSのチームの人たちからアドバイスをもらいました。試験の時、私はよくできました。そして合格しました。(Wさん)

UBSのみなさんは私たちが高校に入るためにたくさん助けてくれました。ほんとうにありがとうございます。みなさんが私を助けなかったら、私は試験に合格しなかったかもしれません。みなさんは私にとってもいい作文を書く方法を教えてくださいました。面接の練習でも助けてくれました。練習しなかったら私はほんとの試験のとき、自信を持ってなかったかもしれません。ほんとうに心からありがとうございますと言いたいです。(Sさん)

〈ハートフル 荒川区日本語適応指導事業〉

ハートフル日本語適応指導事業（通室による初期日本語指導）は、荒川区立教育センターで火曜から金曜まで、午前中3時間ずつ行われています。9月末から中国出身の4人、10月末からネパール出身の2人が加わり、学習の進度に合わせて日本語の学習を進めています。

2か月の通室指導が終わると希望者の依頼により、基本的に17:30から19:30まで、週3回、3か月間の補充指導を実施します。現在、補充教室では、中国出身5人、ネパール出身2人の計7名が一緒に学習しています。学校の出来事や日常生活での様々な体験を、時には興味深げに、時には不安な気持ちを口にしたりしながら、にぎやかな時間を過ごしています。

通室では1月から、ネパールから1名とフィリピンから4名の生徒が学習を始めています。

私は補充教室を担当していますので、ちょうど寒さが増してくる夕方通ってくる生徒たちと日本語の勉強を始めます。6時間の授業をこなして、さらに日本語をマスターしようとして努力している姿を見るにつけ、私自身も励まされています。今は、中学校で勤労留学（職業体験）、そして2月末には学年末テストと忙しいです。「がんばって！」いつも応援しています。(彼ノ矢)



ボランティア 活動報告

親子日本語クラス



親子日本語クラスでは、最近あやとりが大人気です。個別に日本語や学校の勉強をするだけでなく、「みんなでべんきょう」という時間に文字通りみんなで勉強したり何かをするのですが、その時間にあやとりをすると子どもたちは皆夢中で取り組みます。これまでやったあやとりは、「帯」「竹藪の中の家」「東京タワー」「指切り」。

教本があるので手順通りに進めていけばできるのですが、ボランティアさんの代表者が前に出て、指揮を取り、子ども達はそれを見ながら真似ていくのでなかなかうまくいきません。多くのボランティアさんは子どもたちのサポートを…と思っててもこれが難しい。なぜなら、ボランティアの皆さんもあやとりができるわけじゃないので（当然ですが）。子どもたちの手の中

の紐が絡まっていく。それをほどこきながら進めていきたいが子どもたちはどんどん進めたい。

そこで色々なことが起こります。勉強なんて大嫌い、そんな子がスルスルとあやとりをやってのけ、ボランティアさんそっちのけで他の子に教えていったり、いつもちゃんと話を聞いて勉強している子が、全然あやとりがわからず、紐と同様頭の中がこんがらがっていく。

色々な子がいて、色々な得意、不得意があって子どもたちの可能性がたくさんの方角にあるのだと感じるひと時です。

ただ一つ言えることは・・・その集中力、もう少し勉強に向けられないだろうか。ふだん子どもたちの興味を普段引き出せていないことがまざまざと実感させられます。（松田）

子どもプロジェクト

年度末、「〇〇高校に合格しました！」という嬉しい報告が聞かれるようになりました。一方で、まだこれからという子や日本に来たばかりという子もいて、子どもプロジェクトにやって来る子どもたちのニーズは様々です。

国籍や勉強のニーズは多様ですが、勉強に対する意欲・情熱をもっていることは共通しています。2時間の学習時間の中で、集中が途切れてしまう子どもも当然ありますが、それでも毎週土曜日に子どもプロジェクトに来ており、学ぼうという意思が感じられます。

ここに顔を出す動機、また意義は勉強以外にもあります。自分に近いバックグラウンドをもつ仲間と交流をもつこと、そして自身のロールモデルとなり得る存在に出会えることが、子どもたちにとっては何

よりも重要なのだと思います。

私がボランティアとしてお手伝いしていることは、特に高校受験を視野に入れた勉強のサポートですが、それは「多文化共生」という枠組みの中の一部に過ぎません。高校受験はもちろん大切ですが、その先に続く長い人生において、外国にルーツをもつことをポジティブに捉えられるよう接していきたいと願っています。

十代のうちから、自身の母国語だけでなく、日本語でも読み書きができるというのはすごいことです。将来に大きな可能性を秘めた子どもたちの成長に携われることは、ボランティアとしてとても喜ばしいことであり、やりがいを感じています。（村岡）



いいね!

facebook.com/tabunkatokyo

多文化共生センター東京のできごと

多文化共生センター東京の事務局スタッフが多文化共生センター東京の毎日を Facebook に投稿しています。たくさんの「いいね！」を頂いた記事をここでご紹介させていただきます。



157人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

1月24日

当団体顧問の王慧権が、外国にルーツを持つ子どもに対する日本語教育等の活動が認められ、「平成 28 年度文化庁長官表彰」の表彰者に選ばれました。

そして文化庁の代表の方が「たぶんかフリースクール」荒川校へ来校され、ミーティングに集まっていた講師・スタッフの拍手のなか、表彰状と記念品が手渡されました。

平成 28 年度文化庁長官表彰
文化発信部門
王慧権

功績概要：外国にルーツを持つ子どもに対する日本語を含む学習支援に尽力し、行政機関を含む地域の関係機関との連携体制を構築するなど、日本語教育を通じた国際文化交流及び多文化共生社会の実現に多大な貢献をしている。(文化庁ウェブサイトより)



76人

のかたが「いいね！」を押してくれました。

1月25日

授業が終わって 3 時間後、明日の在京外国人対象入試にむけて最後の追い込みをするタイ出身の生徒 3 人と先生たち。

東京の外国人対象入試は、英語か日本語の作文と面接。母国の学校で英語を使って勉強していたネパールやフィリピンの子は英語で作文を書きますし、漢字圏の中国から来た子は日本語で作文を書くことが多いです。しかしそれ以外の国、例えばタイやミャンマーから来た子は作文が書けるほど母国で英語の勉強をしていないことが多く、かといって 4 月や 6 月から勉強をはじめた日本語で 600 字の作文を書くのも大変…ということでこの入試をあきらめる子もたくさんいます。

今年はタイ出身の生徒のうち 2 人は日本語で、1 人は英語で挑戦することを決めました。それからは先生やボランティアさん達から猛特訓を受ける日々でした。

明日はこれまでのがんばりを十分に発揮してくれることと思います。みんながんばれ！

(ご報告)

3 人とも無事に志望校に合格することができました！

これからも Facebook に多文化共生センター東京の日常を投稿していきます。皆様「いいね！」をよろしくお願いします。